

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立本庄小学校）

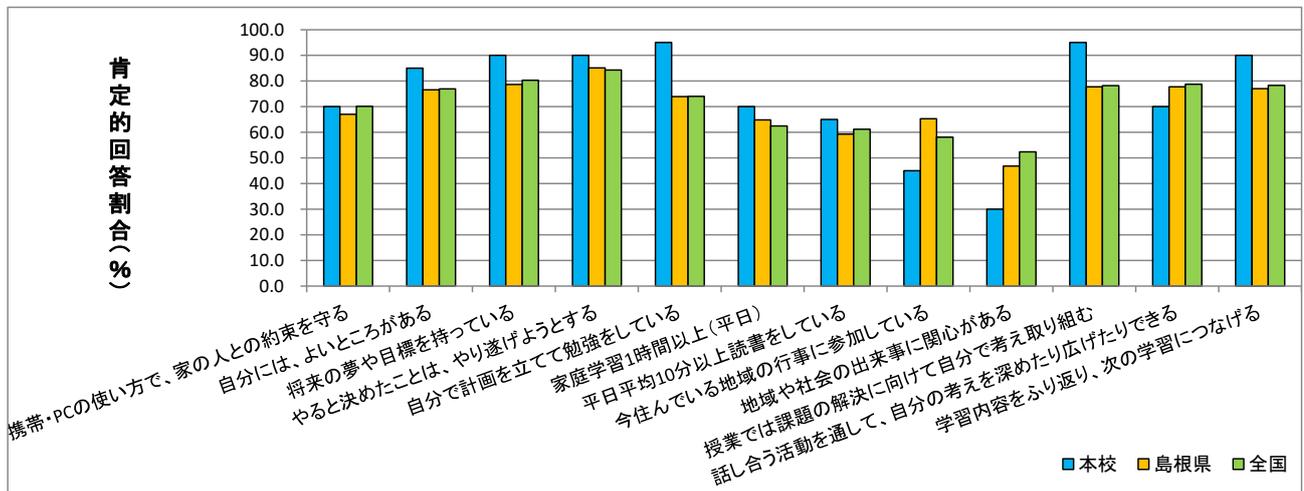
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
国語	○全体の正答率が、全国・県平均を上回っていることから、学力は全体的に上がっていることが分かる。 ○読み取ったことや読んで考えたことを書く活動、キーワードをリストアップしてから字数制限の中で書く活動などを行い、スキルを身につけさせる学習を積み重ねた結果、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える力がついた。 ●全国・県の正答率と同様に、「目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける」「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」などの力が十分でない傾向が見られる。	・国語の学習時間だけでなく、図書館活用学習などの場合も合わせて要約する活動を多く取り入れる。 ・要約する活動の中で、目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける力を高めるようにする。 ・情報量や大事なことの観点を絞るスキルが身につく学習を行う。
算数	○数値や式を言葉で相手に分かるように説明したり、記述したりする学習を丁寧に指導すると共に、日々の授業では文章の意味が理解できているかを確認し、読み取る力の向上を目指してきた。その結果、小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる力がついた。 ●集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断したり、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をしたりすることに課題がある。	・今回見られた課題は、国語で見られた課題とも共通する部分がある。そこで国語と同じように、情報量や大事なことの観点を絞るスキルが身につく学習を算数でも行うようにする。 ・教科書の挿絵なども活用し、日常生活と関連付けて問題へのイメージを膨らませたり、題意を読み取ったりする活動を重視する。

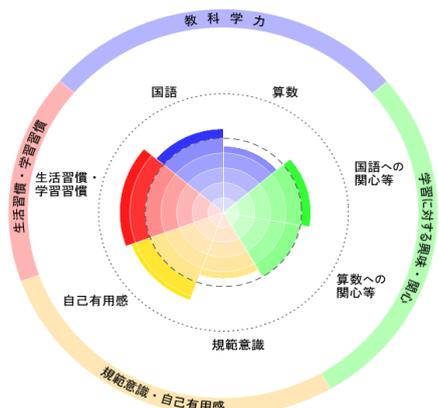
(2) 生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
	○研究仮説に基づき、授業と検証を繰り返してきた結果、「自分で計画を立てて勉強をしている」「授業では課題の解決に向けて自分で考えて取り組む」児童の割合が、一昨年度と比較して増加した。基礎学力の定着や自主性の育ちが見て取れる。 ●話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできる児童の割合が低い傾向がある。 ●地域の行事に参加したり、地域や社会の出来事に関心を持ったりする児童の割合が低い。これについては、学校・保護者・地域がいっしょになって原因と対策を時間をかけて考えていく必要がある。	・校内研究仮説①『児童の実態に合った学習ゴールを設定し、大事なことは何かを共通理解しながら、読み取ったことや気付き・感想を交流する活動を繰り返せば、見通しを持ち、進んで読む児童が育つだろう。』②『情報量や大事なことの観点を絞り、共に深め合う場の持ち方を工夫すれば、自力で読みたいものを読める児童が育つだろう。』の検証を授業を通して行っていく。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・校内研究仮説①に関連して、児童の実態に合った学習ゴールを設定し、大事なことは何かを共通理解しながら、読み取ったことや気付き・感想を交流する活動を継続して行う。  
 ・校内研究仮説②に関連して、情報量や大事なことの観点を絞り、共に深め合う場の持ち方を工夫した学習を積み重ねる。

【受検者数】 20名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。